

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

1. 計画期間終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和元年12月以降、認定基本計画に基づき、「多様な文化が集い、まちへの愛着を育む賑わい拠点」をまちづくりのコンセプトとし、JR茨木駅と阪急茨木市駅の両駅周辺のエリアを「コア」、中央の市役所や広場、元茨木川緑地周辺のエリアを「パーク」、2つのコアを結ぶ中央通りと東西通りの東西軸を「モール」と位置づけ、「2コア1パーク&モール」による都市構造を活かし、中心市街地内に魅力ある商業機能や居心地の良い空間を創出するための各事業を実施してきた。

本市の良好な住環境や高い交通利便性を背景に、中心市街地内人口が増加したことに加え、まちづくり会社FICベース株式会社による公共空間の活用や複合施設開業等、官民連携による取組に挑戦し続けてきたことにより、目標指標の歩行者通行量は目標値を大幅に上回り、中心市街内の賑わいは向上した。特に、計画期間中の主要事業でもあった茨木市文化・子育て複合施設おにクル（以下おにクル）が令和5年度に竣工・開館したこと等により、中心市街地の中心に位置する「パーク」において新たな人流と交流が生まれている。

また、新規出店への支援策の継続による商業環境の魅力は向上したが、目標指標の新規出店数は、コロナ禍の影響による落ち込みにより、平均値としては目標値に届かなかったが、アフターコロナ移行後の平均値では目標値を達成しており、改めて中心市街地のポテンシャルが認識されることとなった。

一方で、「パーク」を成す「おにクル」から「2コア」であるJR茨木駅と阪急茨木市駅を結ぶ中央通りでの人の往来は未だ十分には伸びていないほか、商店街での賑わいについてはアンケートでも市民の実感として「衰退した」との意見が多くなっており、中心市街地内のエリア別では賑わいの状況に差があるなど、新たに創出した豊かな人流をエリア全体の回遊につなげるという観点では未だ課題がある。「2コア」を形成するJR茨木駅・阪急茨木市駅周辺においては「ひと中心のまちなか」に向けた再整備に取り組んでいるところであり、引き続き官民が連携して生まれつつある賑わいを中心市街地全体に広げていく必要がある。

【**中心市街地の状況に関する基礎的なデータ**】

(基準日：毎年度 12 月 31 日)

(中心市街 地区域)	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)	令和 6 年度 (最終年度)
人口	14,222	14,192	14,375	14,576	15,026	15,502	16,013
人口増減数	140	△30	183	201	450	476	511
自然増減数	-	-	-	-	-	-	-
社会増減数	-	-	-	-	-	-	-
転入者数	-	-	-	-	-	-	-

※中心市街地区域 16 町丁目 (春日一丁目、西駅前町、駅前一～四丁目、西中条町、岩倉町、片桐町、元町、大手町、本町、宮元町、別院町、永代町、双葉町)の住民基本台帳人口の合計

※システム上、自然増減数、社会増減数、転入者数については集計困難のため記載していない

【**地価**】

(単位：円/㎡)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)	令和 6 年度 (最終年度)
JR 茨木駅付近 (東側) (駅前 1-8-19)	331,000	351,000	356,000	361,000	370,000	388,000	410,000
JR 茨木駅付近 (西側) (西駅前 5-4)	523,000	561,000	570,000	585,000	613,000	665,000	738,000
市役所付近 (駅前 3-7-1)	360,000	377,000	382,000	384,000	391,000	406,000	427,000
阪急茨木市駅 付近 (永代町 8-30)	350,000	364,000	370,000	373,000	387,000	405,000	430,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地は活性化したか。
(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【**進捗・完了状況**】

- ①概ね予定通り進捗・完了した
②予定通り進捗・完了しなかった

【**活性化状況**】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2. における選択肢の理由）

計画記載事業全 56 事業のうち、55 事業が完了若しくは実施中（13 事業が完了、42 事業が実施中）と、主要事業を中心に概ね順調に進捗・完了したと言える。未実施は 1 事業で、実施されなかった主な要因は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業の中止であり、主要事業を中心に遅延なく実施できたことから、概ね順調に進捗・完了したといえる。

第 1 期計画の目標指標は、計画期間中新型コロナウイルスの世界的な影響下にあったにも関わらず、「計画掲載事業を活用した新規出店数」、「平日昼間の歩行者通行量」とともに増加傾向で推移し、計画期間内最高の水準を維持したまま目標数値を達成した。この背景には、本市の良好な住環境や高い交通利便性を背景に、中心市街地内人口が増加したことに加え、コロナ禍の中にあってもいばらきスカイパレットをはじめ公共空間の活用に関民が連携して挑戦し続けてきたことや、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」開業、新規出店への支援策の継続による商業環境の魅力が向上したこと、また、第 1 期計画の主要事業でもあった「おにクル」が令和 5 年度に竣工・開館し、予想を遥かに上回る来館者数を記録するなど、高い集客効果を誇っていることが要因として考えられる。市民意識調査でも、「おにクル」周辺にあたる市役所周辺エリアについては、「活性化した」との回答が 75%と、市民の実感としても活性化に一定の成果が現れていると考えられる。

第 1 期計画では、参考指標として岩倉公園、いばらきスカイパレット、中央公園グラウンド及び阪急茨木市駅西口駅前広場における公共空間の活用件数を掲げていたが、多様な主体の連携によるひと重視、プロセス重視の取組により目標数値は達成され、参考指標の対象地以外の中心市街地内の様々なエリアでも展開は広がり、ひと中心のまちなか形成に向けた機運醸成が進みつつある。

前述のとおり、新たに創出した豊かな人流をエリア全体の回遊につなげるという観点では未だ課題があるとはいえ、以上のことから、官民それぞれの取組がまちなかのにぎわい創出に結びついており、第 1 期計画の成果として中心市街地が「活性化した」と考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

令和 6 年度は、第 1 期基本計画の最終年度となり、目標指標である新規出店数と歩行者通行量は高水準のまま増加し、公共空間の活用件数も大幅に増加した。

特に、公共空間の活用件数については、計画期間中コロナ禍や施設整備に係る利用制限等、厳しい環境下にあったにも関わらず、IBALAB@広場やまちづくり会社によるイベントをはじめ、数年にわたる官民連携した創意に溢れる多様な試みを粘り強く展開した結

果、「おにクル」と併せて新たに整備された公共空間の活用数値にも、大きな成果として現れたものとする。

通行量に関しても、計画期間中コロナ禍という社会情勢にあったものの、全体としては増加の推移を続け、中心市街地の高いポテンシャルを確認できる結果となった。背景に人口増や中心市街地内にキャンパスを置く立命館大学の新棟設置等があることに加え、第1期計画の主な事業でもあったおにクルのオープンや、公共空間活用、商業環境の魅力向上等、総合的な取組の実践が目標達成を導いたと言える。一方で、中心市街地の中心、おにクルに隣接する計測地点である市民会館跡地地点や、阪急茨木市駅周辺の一部地点では、各種事業による集客効果が十分に行き渡っていない様子も見られ、回遊性という点では今後もさらに様々な取組を進めていく必要があると捉えている。

官学民が連携して立ち上げたまちづくり会社では、商店街付近でオープンさせた複合施設「omo café+c」の運営、JR茨木駅東口のいばらきスカイパレットにて、道路の占用の特例を活用したコンテナ型カフェ「milk|stand|café elle」の誘致など、集客の拠点となるような施設の運営を通じ、魅力ある商空間形成を牽引している。また、クリエイターによるワークショップや蚤の市等開催、多様な主体の巻き込み・連携の推進を通じ、中心市街地内での新規出店につながるような人材とのネットワークを深めており、商工会議所と連携した情報発信の継続実施の効果も現れたことから、新規出店数の増加に繋がったと考えられる。引き続き、市民が立ち寄りやすく訪れる目的となる場所の創出に向け、更に新規出を促す環境づくりを進めていくことが期待される。

第1期基本計画の主要事業の実施を通じて、中心市街地内では多くの市民が滞在・活動する景色が見られるようになった。これまでの取組を通じて得られた、施設整備等による新たな人流を、多様な市民活動や事業運営の工夫とノウハウの蓄積を活かし、まち全体の賑わいにつなげていくことが重要になっている。また、今後は本市においても人口減少による消費の縮小、働き手の減少等による地域全体の活力の低下が懸念されることを踏まえ、中心市街地において交通環境の改善や公共空間の更なる活用に継続して取り組むことも必要である。

第1期基本計画の推進において、厳しい社会環境下でも着実に事業を進めるべく、当協議会においても多様な主体の共創を推進し、目標を一定達成したことは、中心市街地の魅力向上に関わる各主体の大きな経験・力となった。第2期基本計画の総合的かつ一体的に推進に向けても、当協議会が中核的な役割を担い、民間活力の導入や情報交換など、茨木市と密接に連携を図りながら官民連携による活性化施策の推進に積極的に取り組んでいく所存である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

茨木市中心市街地活性化に関する市民意識調査

調査日：令和6年5月25日(土)～令和6年6月10日(月)

調査方法：茨木市に居住する18歳以上の市民2,000人を無作為抽出しアンケートを郵送

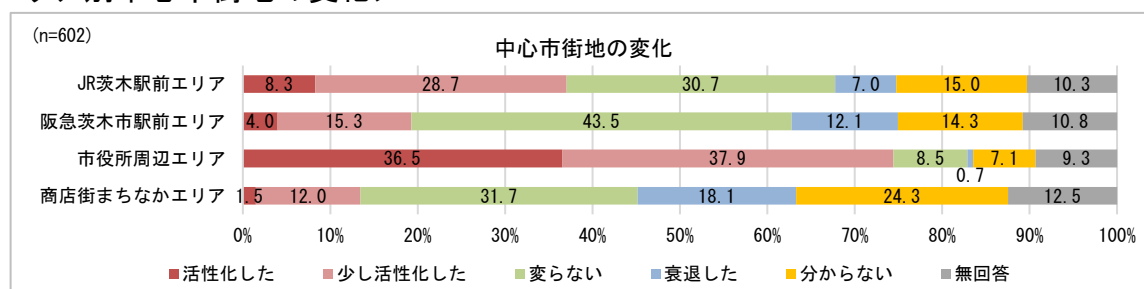
有効サンプル数：602人（回答率30.1%）

市民意識調査における「中心市街地の変化」に関する質問に対する回答をみると、「市役所周辺エリア」で「活性化した」（36.5%）、及び「少し活性化した」（37.9%）と約75%が活性化したと回答。主要な事業である「おにクル」周辺エリアでもあり、計画記載事業の実施により、多くの市民から活性化の効果が実感されていると言える。また、「過去5年間の主な取組の活性化への効果」に関する質問に対する回答でも、「おにクル」は開館から間もないにも関わらず、市民への認知度も高く、効果が広く実感されている。

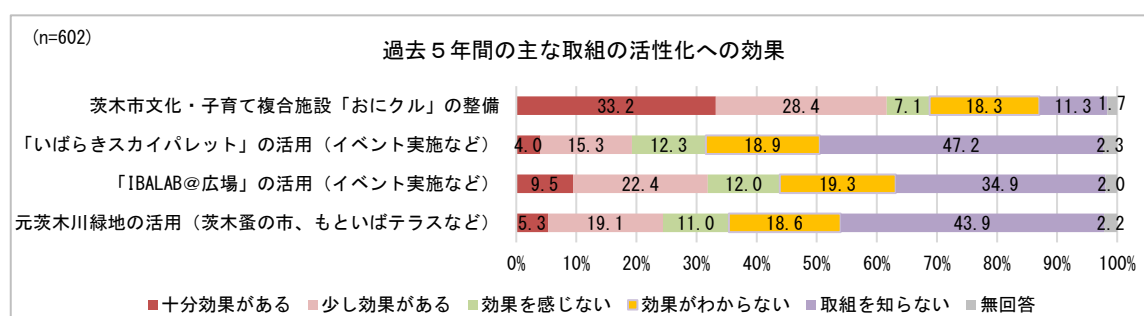
一方、「中心市街地の変化」に関する質問に対する回答では、「商店街まちなかエリア」では「衰退した」が「活性化した」との回答を上回っており、市民の実感としては賑わいに課題がある。この要因の一つとしては、中心市街地における市民の商業利用が、物販から飲食やヘルスケア等サービスへとシフトしており、ライフスタイルの変化に応じて店舗の構成比率に変化が生まれ、従来からの商業集積としてイメージする買物の場としての賑わいとのズレが生じていると考えられる。また、「過去5年間の主な取組の活性化への効果」に関する質問では、「いばらきスカイパレット」、「IBALAB@広場」、「元茨木川緑地」の活用については、「取組を知らない」が3～5割の回答となっており、認知度が不十分であるために、各取組が展開されたエリアでの市民の活性化への実感が十分ではないものと考えられる。

上記から、第1期計画の主な事業であった「おにクル」整備による効果としては、市民から十分に中心市街地が「活性化した」と実感されているが、他のエリアで実施された事業については認知度をはじめ課題があり、中心市街地全体としては「若干活性化した」との実感を得ているものとする。

<エリア別中心市街地の変化>



<過去5年間の主な取組の活性化への効果>



6. 今後の取組

まちづくり会社による公共空間の活用や複合施設の整備・運営、新規出店への支援、「おにクル」の整備等、第1期計画記載事業の実施により生まれつつある賑わいを、さらに中心市街地全体に広げていくことが重要である。特に、市民意識調査では、「おにクル」の立地する市役所周辺での活性化は認知・実感されている一方、商店街まちなかエリアにおける活性化の実感は少なく、他のエリアにおける取組の認知度も低い傾向にあることから、今後は、情報発信やプロモーションを積極的・効果的に行うとともに、市民ニーズに合致した商業の集積を引き続き図り、取組の認知や賑わいに対するイメージのズレを解消していく。

また、第1期計画では、官民が連携して公共空間活用の取組を中心市街地内の各エリアで実施してきた。世界中の多くの都市でも、街路空間をはじめとした公共空間を人々が集い、憩いや多様な活動を繰り広げられる場にしていく取組が進められており、都市に活力を生み、持続可能性や国際競争力を高めるアプローチとして注目を集めている。

本市の公共空間活用の取組は、「ひと中心のまちなか」に向けた、本市独自の魅力の発揮につながるものとして継続・発展が望まれており、今後は、「おにクル」に集まる新たな人流をはじめとした第1期計画の成果をエリア全体へと波及させていく観点からも、引き続き公共空間等を多様な人のつながりや活動の場の創出と、魅力と活力あるまちなかの形成に向けて様々な事業を連鎖していく。具体的には、中心市街地の都市構造のうち「コア」を形成するJR茨木駅・阪急茨木市駅周辺における、「ひと中心のまちなか」に向けた再整備や、「パーク」を構成する中央公園の整備によるまちなかへの滞留性の一層の向上、「コア」や「パーク」をつなぐ道路を歩行者中心の空間への整備等を進めるとともに、まちなかで新たに活動・事業を始めたい人の支援、まちなかの情報発信などのソフトマネジメントの取組を進める。

上記の取組を進めるため、本市では第2期茨木市中心市街地活性化基本計画を策定した。

本計画では、中心市街地の将来像「茨木らしい幸せと豊かさを共感できるまちなか」の実現を目指し、「歩いて楽しい徒歩圏の実現」、「魅力的な都市空間の整備・誘導」、「多様な主体が使いこなせるまちなかの実現」を目標に位置づけることにより、中心市街地全体の活性化を図るものとする。

第2期計画では、第1期計画の目標指標を引き継ぐとともに、第1期計画では参考指標であった「公共空間の活用件数」も目標指標として設定し、毎年度のフォローアップを通じて各目標指標を中心にPDCAサイクルを実現していく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

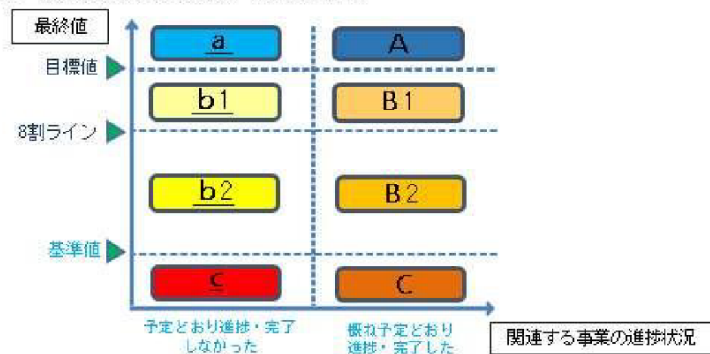
1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
中心商業機能の質の更新	計画掲載事業を活用した新規出店数	8.4 店/年 (H26～H30 平均)	13.3 店/年 (R1～R6 平均)	12.3 店/年	12.7 店/年 (R1～R6 平均)	R7/3	B1
滞在・活動の場の創出	平日昼間の歩行者通行量（平日：9～17時）	27,438 人/日 (H29)	30,712 人/日 (R6)	30,057 人/日	37,404 人/日	R6/11	A
	【参考指標】公共空間活用件数	87 件/年 (H30)	125 件/年 (R6)	117 件/年	246 件/年	R7/3	A

<達成状況の分類>

A	目標達成(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
a	目標達成(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
B1	基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
b1	基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
B2	基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
b2	基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
C	基準値に及ばない(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
c	基準値に及ばない(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

※目標指標の最終値が目標値や基準値と比べてどうだったのかという視点と、関連する事業は予定通り進捗・完了したかという視点から評価を行う。



※目標値を現状数値の悪化率の抑制率としている目標指標については、目標値と比較して数値が大きい場合には、「A、a」、目標値には満たないものの目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より大きい場合には「B1、b1、B2、b2」、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より小さい場合には「C、c」としてそれぞれ算出する。

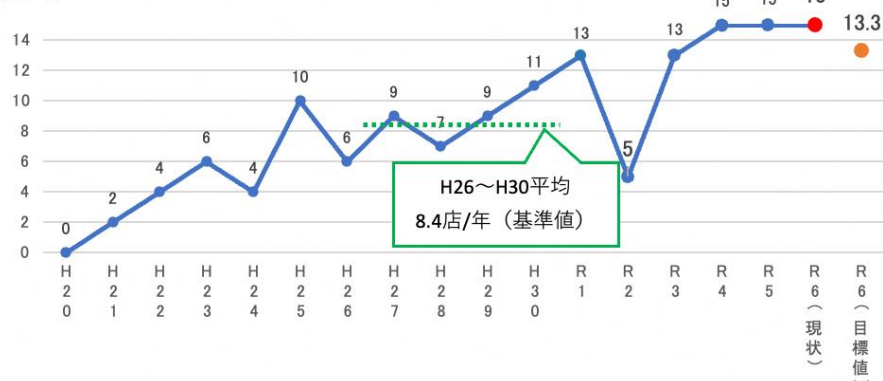
4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「計画掲載事業を活用した新規出店数」(目標の達成状況【B】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81 参照

●調査結果と分析

(店/年)



年	(単位)
H20 ~ H30 平均	8.4 (基準年値)
R 1	13
R 2	5
R 3	13
R 4	15
R 5	15
R 6	15
平均	12.7 * R1~R6
R 6	13.3 (目標値) *ただし R1~R6 平均

※調査方法：各年度の「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の活用件数と、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗数を集計。

※調査月：令和7年3月

※調査主体：茨木市

※調査対象：「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の対象店舗、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗

〈分析内容〉

「計画掲載事業を活用した新規出店数」の増加に向けた各事業については、茨木市創業促進事業補助金での開業が9店舗、茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の活用が6店舗となり、計画掲載事業を活用した新規出店数は15店舗/年と、前年度と同水準、かつ目標数値を上回る結果となった。

まちづくり会社による商店街にぎわい空間整備事業及びクリエイターズマーケット整備事業として、古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が令和4年5月に開業、文化複合施設「おにクル」が令和5年11月にオープンと、直近の2年間でエリア全体の集客や滞在の魅力向上に貢献する拠点が複数できた。その結果、新規出店・創業環境としての魅力も維持・向上していることが本指標にも現れているものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】1店舗 【最新値】1店舗（目標達成） 事業主体となるまちづくり会社により、古民家物件の改修を実施し、令和4年5月にカフェとハンドメイドクリエイターの販売スペース等からなる複合施設「omo café+c」を整備し、市民ニーズに対応した飲食店1店舗を誘致した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業はまちづくり会社による積極的な誘致活動により、居心地の良い飲食店の誘致・運営が計画通りに進捗した。クリエイターズマーケット整備事業との相乗効果により、来訪・滞在目的となる場づくりに取り組み、魅力ある商空間の形成やエリアのにぎわい創出を牽引する商業施設として運営を図っていることが達成の理由と考えられる。

②クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を1坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】9店舗 【最新値】4店舗（目標未達成） まちづくり会社が空き店舗を改装して整備した複合施設「omo café+c」の1坪区画とワークショップスペースに、ハンドメイドクリエイター等が出展可能なスペースを整備し、計画期間中9店舗の出展を目指していたが、累計4店の出店にとどまった。
達成した（出来なかった）理由	計画期間中コロナ禍が含まれ、出店が見込まれるクリエイターの発掘やつながりづくりに向けたまちづくり会社によるイベント主催も制約を受けていたことが目標未達成の一つの要因であると考

	えられる。また、中心市街地内の新規出店に関する茨木市の支援制度や商工会議所の支援等について想定するターゲットに対して情報が十分には周知できていないことやニーズとの不整合なども要因として考えられる。今後は、マルシェ等の多様なイベントや交流企画等を実施し、引き続きクリエイターの巻き込みを図るとともに、支援制度に関する情報提供等新規出店を後押しする取組も併せて行っていく。
--	--

③まちづくり会社による店舗誘致事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が市民ニーズに合致した業種・業態の店舗を誘致することで、魅力的な商業空間の形成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】2店舗／年（計画期間中累計10店舗） 【最新値】0店舗（目標未達成） 不動産事業者と連携して不動産所有者と創業・出店意欲のある人を繋ぎ、遊休不動産の積極的活用を促進し、5年4か月で10店舗の新規出店を見込んでいた。 複合施設「omo café+c」及び道路空間活用事業の誘致と並行して本事業を進めてきたが、計画期間中の店舗誘致には至らなかった。
達成した（出来なかった）理由	事業主体となるまちづくり会社で空き店舗の調査や仲介業者・不動産所有者とのつながりづくりに努めてきたが、店舗向けの賃貸意向を有する不動産所有者の発掘に難航したことや賃料の高騰が目標未達成の大きな要因と考えられる。賃貸事業の詳細や、仕舞屋状態にすることによるまちの賑わいへの影響等に関する理解や知識が不動産所有者の方々に十分浸透していないと考えられるため、まちづくり会社からの情報発信等に今後取り組んでいく。

④-1 茨木市創業促進事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成15年度～【実施中】
事業概要	飲食店や小売店舗の新規創業に対して、開業に要する経費を補助することで創業を促進し、商業機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】10店舗／年※ただし④-1と④-2合計 【最新値】9店舗／年※④-1のみ（目標達成） 令和6年度は9店舗の新規出店となり、基準年値である5.2店舗（平成26～平成30年平均）を上回った。
達成した（出来	中心市街地での人口増や、まちづくり会社による魅力ある商空間

なかった)理由	の形成やエリアのにぎわい創出を牽引する商業施設の整備、公共空間の活用によるまちなかの魅力向上等により、新規出店・創業意欲を持つ事業者が増え、本支援制度の茨木商工会議所・まちづくり会社等と連携した周知・発信を継続して行なった結果、目標を達成したものと考えられる。
---------	--

④-2 茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	既存小売店舗の改築や 2 店舗目の出店、業態変更に係る費用を補助することで、商業機能の質の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】10 店舗※ただし④-1 と④-2 合計 【最新値】6 店舗※④-2 のみ（目標達成） 令和 6 年度は 6 店舗の新規出店となり、基準年値である 3.2 店舗（平成 26～平成 30 年平均）を上回った。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地での人口増や、まちづくり会社による魅力ある商空間の形成やエリアのにぎわい創出を牽引する商業施設の整備、公共空間の活用によるまちなかの魅力向上等により、新規出店・創業意欲を持つ事業者が増え、茨木商工会議所・まちづくり会社等と連携した本支援制度の周知・発信を継続して行なった結果、目標を達成したものと考えられる。

●今後の対策

令和 6 年度の「計画掲載事業を活用した新規出店数」は基準値を上回り、前年度と同じく計画期間中過去最高の数値を維持する結果となった。

この背景として、中心市街地内の人口増加の継続や、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」の令和 4 年開業、「おにクル」が令和 5 年にオープンと、エリア全体の集客や滞在の魅力向上に貢献する拠点が複数でき、出店環境としての期待が高まる中、中心市街地の立地ポテンシャルが向上していることが考えられる。

また、茨木商工会議所の創業支援等の取組や、情報発信等も連携・継続してきた結果、周辺都市や地域と比べても、開業に挑戦する上で魅力的な立地として中心市街地が評価されたものと考えられる。

今後も、茨木商工会議所やまちづくり会社と連携した情報収集・発信に努め、市民に行きつけの店として親しまれるような店舗の立地誘導を進め、魅力的な商業環境を創出していく。

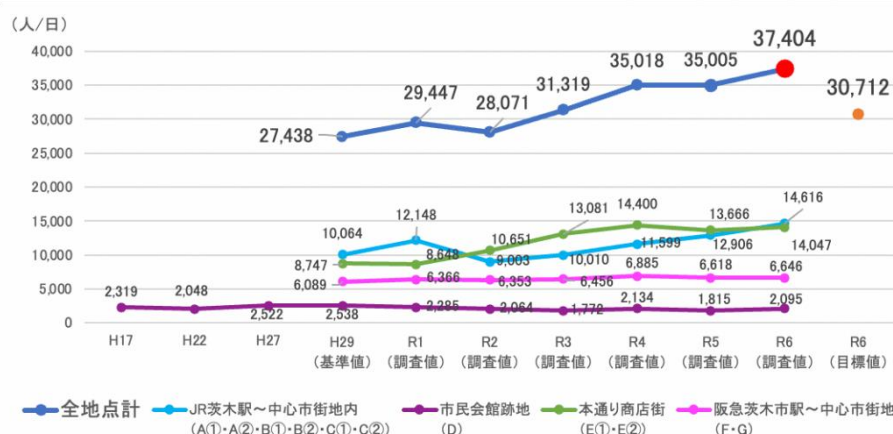
具体的には、創業への支援や店舗等開業に適した物件の掘り起こし、インキュベーション促進の取組等を行政・商工会議所・まちづくり会社・大学等が連携して展開し、市民の来訪目的となるような魅力的な店舗の立地を誘導する。まちなかへの来訪動機の増加に向けては、イベントの開催や SNS 等を通じた情報発信も重要であり、市民や民間事業者、大学等の連携促進と調整が必要になることから、まちづくり会社がそれらの取組を支援していく。

また、人の活動や営みを集める拠点「2 コア 1 パーク&モール」の「コア」である阪急茨木市駅、J R 茨木駅周辺において、市民の来訪目的になるような施設機能の充実と、建物の更新や交通の輻輳等の解消による居心地の良い空間づくりを目指し、再整備に向けた検討を進める。

「平日昼間の歩行者通行量」（目標の達成状況【A】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	人/日
H29	27,438 (基準年値)
R 1	29,447
R 2	28,071
R 3	31,319
R 4	35,018
R 5	35,005
R 6	37,404
R 6	30,712 (目標値)

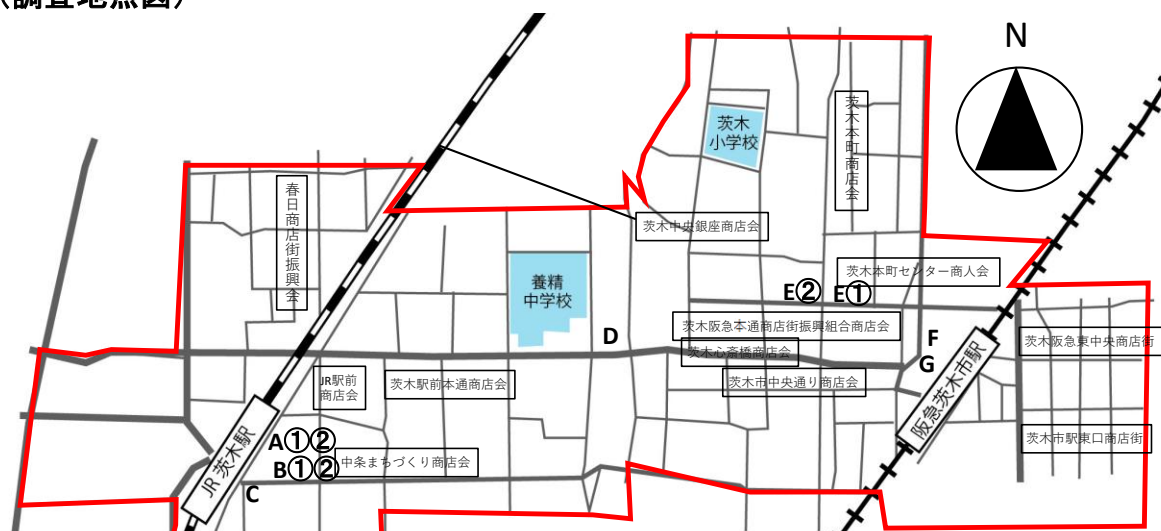
※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年 11 月の平日に中心市街地内 10 地点において午前 7 時から午後 7 時までの 12 時間計測。

※調査月：令和 6 年 11 月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内 10 地点（A①JR 茨木駅商店街側エスカレーター、A②JR 茨木駅商店街側居酒屋前、B①JR 茨木駅阪急オアシス前エスカレーター、B②JR 茨木駅阪急オアシス前、C JR 茨木駅立命館方面エスカレーター、D 市民会館跡地、E①本通り商店街（阪急茨木市駅方面）、E②本通り商店街（城跡方面）、F 阪急茨木市駅商店街側、G 阪急茨木市駅市役所側）

（調査地点図）



(各調査地点の歩行者通行量)

調査地点		R1 (調査値)	R2 (調査値)	R3 (調査値)	R4 (調査値)	R5 (調査値)	R6 (調査値)
A①	JR茨木駅商店街側エスカレーター	1,833	1,904	1,870	2,198	2,150	2,203
A②	JR茨木駅商店街側居酒屋前	247	228	188	195	174	158
B①	JR茨木駅阪急オアシス前エスカレーター	2,758	2,375	2,362	2,446	2,794	2,930
B②	JR茨木駅阪急オアシス前	1,490	1,000	849	1,043	1,258	1,123
C	JR茨木駅立命館方面エスカレーター	5,820	3,496	4,741	5,717	6,530	8,202
D	市民会館跡地	2,285	2,064	1,772	2,134	1,815	2,095
E①	本通り商店街（阪急茨木市駅方面）	8,129	8,609	9,179	8,624	7,985	7,667
E②	本通り商店街（城跡方面）	519	2,042	3,902	5,776	5,681	6,380
F	阪急茨木市駅商店街側	3,867	3,557	3,616	3,877	3,644	3,873
G	阪急茨木市駅市役所側	2,499	2,796	2,840	3,008	2,974	2,773
全地点計		29,447	28,071	31,319	35,018	35,005	37,404

《分析内容》

「平日昼間の歩行者通行量」は、令和6年度で37,404人／日と目標値である30,712人／日上回り、計画期間内最高の水準を維持したまま目標数値を達成した。この背景には、本市の良好な住環境や高い交通利便性を背景に、中心市街地内人口が増加したことに加え、コロナ禍の中にあってもいばらきスカイパレットをはじめ公共空間の活用に官民が連携して挑戦し続けてきたことや、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」開業、新規出店への支援策の継続による商業環境の魅力が向上したこと、また、第1期計画の主要事業でもあった「おにクル」が令和5年度に竣工・開館し、予想を遥かに上回る来館者数を記録するなど、高い集客効果を誇っていることが要因として考えられる。

また、各調査地点の令和元年度から令和6年度の推移をみると、JR茨木駅周辺（A①・B①・C）と本通り商店街（E②）では特に増加傾向を続けている。JR茨木駅周辺での増加要因は、中心市街地内全体の人口増による歩行者の増加に加え、特に令和6年度に立命館大学大阪いばらきキャンパスにおいて新棟が竣工し、2学部・研究科が開設されたことが考えられる。本通り商店街周辺での増加要因は、前述したまちづくり会社による複合施設開業や新規出店への支援で商業環境の魅力が向上したことに加え、ウィズコロナ・アフターコロナのライフスタイルとして平日も自宅で過ごす人の増加により、自宅周辺での買い物や飲食等の行動が増えたことが推測される。

一方、「おにクル」に最も近い調査地点市民会館跡地（D）でも、令和6年度には2,095人／日となったが、コロナ前の令和元年の基準にまでは回復していないこと、「おにクル」には1日で約4,000人が来館（平日）と高い集客効果を誇っていることから、「おにクル」からの波及効果が現状で十分とは言えず、今後さらに増加することが期待される。

阪急茨木市駅周辺においては、令和元年度から令和6年度にかけて緩やかな増加傾向となっているが、特に阪急茨木市駅市役所側（G）では令和4年度以降通行量が減少しており、今後の減少傾向の動向や要因に注視する必要がある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和4年度～令和6年度【実施中】
事業概要	道路の占用の特例を活用し、JR 茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】1,747 人／日 （エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 60 人／日 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増（目標達成） ＜参考＞JR 茨木駅～中心市街地への計測ポイントでの増加分は 4,552 人／日 当該事業により一日当たり 60 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和6年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。当該事業周辺の計測ポイントでの増加分は 4,552 人／日となり、目標達成に大きく貢献した。
達成した（出来なかった）理由	官民連携したイベントの実施等公共空間の活用によりコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取組み続けたことや、令和5年3月よりまちづくり会社が設置・運営しているコンテナ型カフェ「milk stand cafe elle」が賑わい創出に貢献していること、さらに中心市街地全体の人口増や立命館大学への学部・研究科の移転も背景となり目標が達成されたものと考えられる。

②文化複合施設整備事業（地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備）（茨木市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,747 人／日 （エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 1,305 人／日 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増（目標達成） ＜参考＞市民会館跡地では 443 人／日の基準年からの減

	当該事業により一日当たり 1,305 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和 6 年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。一方で、当該事業周辺の計測ポイント（市民会館跡地）では 443 人／日の基準年からの減となった。
達成した（出来なかった）理由	官民連携したイベントの実施等公共空間の活用にコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取組み続けたことや、中心市街地全体の人口増も背景となり目標が達成されたものと考えられる。 一方で、当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では通行量が減と、基準年の水準までには達しない結果となっているため、「おにクル」の高い集客効果が周辺の回遊には十分には繋がっていないものと考えられる。

③中央公園（南）整備事業（茨木市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 5 年度【済】
事業概要	文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和 2 年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,747 人／日 （エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 294 人／日 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増（目標達成） ＜参考＞市民会館跡地では 443 人／日の基準年からの減 当該事業により一日当たり 1,305 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和 6 年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。一方で、当該事業周辺の計測ポイント（市民会館跡地）では 443 人／日の基準年からの減となった。
達成した（出来なかった）理由	官民連携したイベントの実施等公共空間の活用にコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取組み続けたことや、中心市街地全体の人口増も背景となり目標が達成されたものと考えられる。 一方で、当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では通行量が減と、基準年の水準までには達しない結果となっているため、「おにクル」の高い集客効果が周辺の回遊には十分には繋がっていないものと考えられる。

④商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,747 人／日 （エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 80 人／日 ※ただし事業④⑤の和 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増（目標達成） ＜参考＞商店街周辺では 5,300 人／日の基準年からの増 当該事業により一日当たり 80 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和６年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。当該事業周辺の計測ポイントでの増加分は 5,300 人／日となり、目標達成に大きく貢献した。
達成した（出来なかった）理由	商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より 5,300 人／日の増加となっており、カフェとクリエイタースペースから構成される複合施設「omo café+c」の整備・運営に加え、新規出店への支援を通じて、来訪目的となるような商業環境の向上に取り組んできたことの効果が発現したものと考えられる。また、官民連携したイベントの実施等公共空間の活用によりコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取り組み続けたことや、中心市街地全体の人口増も背景となり目標が達成されたものと考えられる。

⑤クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を１坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,747 人／日 (エリア全体の計測ポイントでの増加分) ＜参考＞本事業による増加分は 80 人／日 ※ただし事業④⑤の和 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増 (目標達成) ＜参考＞商店街周辺では 5,300 人／日の基準年からの増 当該事業により一日当たり 80 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和 6 年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。当該事業周辺の計測ポイントでの増加分は 5,300 人／日となり、目標達成に大きく貢献した。
達成した（出来なかった）理由	商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より 5,300 人／日の増加となっており、複合施設「omo café+c」でのクリエイターによるワークショップやマルシェ、その他来訪目的となるような交流イベント等コンテンツの提供にまちづくり会社が積極的に取り組んできたことの効果が発現したものと考えられる。また、官民連携したイベントの実施等公共空間の活用によりコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取組み続けたことや、中心市街地全体の人口増も背景となり目標が達成されたものと考えられる。

⑥立命館大学留学生商店街連携事業（立命館大学）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	商店街と留学生が連携・交流しながら留学生向けの商店街マップを作成し、留学生の商店街への来街を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】1,747 人／日 (エリア全体の計測ポイントでの増加分) ＜参考＞本事業による増加分は 8 人／日 【最新値】9,966 人／日の基準年からの増 (目標達成) ＜参考＞JR 茨木駅～中心市街地への計測ポイントでの増加分は 4,552 人／日 当該事業により一日当たり 8 人の平日昼間の歩行者数増加を見込み、中心市街地のエリア全体の計測ポイントでの基準年からの増加分として 1,747 人／日増を見込んでいたが、令和 6 年度時点で基準年の数値から 9,966 人／日の通行量の増加と目標を達成した。当該事業周辺の計測ポイントでの増加分は 4,552 人／日となり、目標達成に大きく貢献した。

達成した（出来なかった）理由	官民連携したイベントの実施等公共空間の活用によりコロナ禍の厳しい社会情勢にあっても取り組み続けたことや、中心市街地全体の人口増や立命館大学への学部・研究科の移転も背景となり目標が達成されたものと考えられる。
-----------------------	--

●今後の対策

中心市街地における人口増加を背景に、官民連携した公共空間活用等の取組を粘り強く継続してきたことや、まちづくり会社による複合施設の開設や交流イベントの開催、商工会議所と連携した新規出店支援、「おにクル」のオープンなど、第1期計画の主要事業を進めてきた結果、エリア全体の歩行者通行量は増加し、目標数値を達成した。

特に歩行者通行量の増加傾向が顕著であったのは、JR 茨木駅周辺と商店街周辺であったが、上記の取組に加え、背景要因として立命館大学での新棟設置による学部・研究科の開設、ウィズコロナ・アフターコロナのライフスタイルとして平日も自宅で過ごす人が増加したこと等が挙げられる。

一方で、歩行者通行量の計測ポイントのうち、「おにクル」に最も近い市民会館跡地では、基準年の水準にまで通行量が回復しておらず、「おにクル」の集客効果が周辺に十分には波及していない様子が現れている。阪急茨木市駅周辺においても、直近では減少傾向がやや見られるため、「おにクル」をはじめ、取組の波及効果をいかに回遊行動につなげ、エリア全体へと広げていくかが課題となっている。

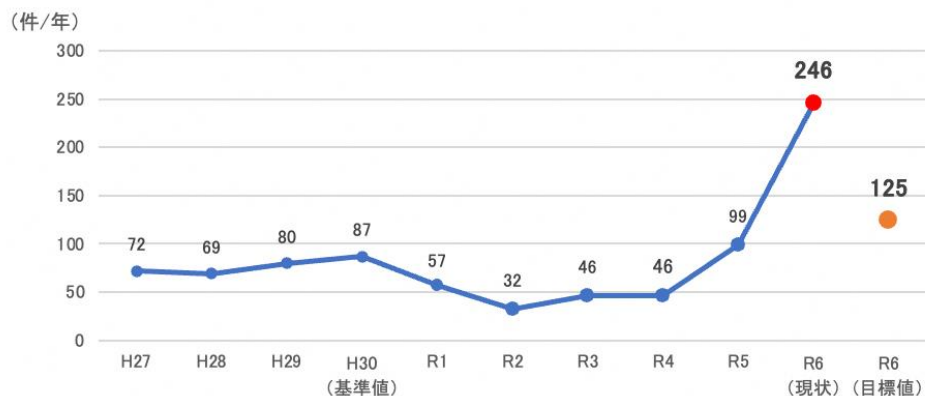
今後は、回遊性の向上に向け、歩行空間の高質化と滞在空間の創出等により、歩行者と自転車を優先する交通環境の充実等を進め、目的がなくてもそぞろ歩きが楽しめるまちなかの実現を図り、歩いて楽しい徒歩圏の実現を目指す。

具体的には、中央公園整備事業により利活用できる居心地の良い空間の整備や南北に通る市道駅前三丁目若草線の車道拡幅と歩道整備、市道市役所前線の舗装の高質化と植栽、照明、ストリートファニチャー等の整備により歩行者環境を改善し、ひとが中心の歩いて楽しいまちなかの実現を進める。また、中心市街地を南北に縦断する元茨木川緑地においては、自然に触れ合える散策道としての活用を進め、歩くことそのものの来訪目的化も推進する。さらに、平日・休日問わずイベントや公共空間活用の取組を推進し、中心市街地内の場所や人との偶然の出会いや発見の機会増大を図り、何度も訪れたいくなるまちなかの実現につなげる。

参考指標「公共空間活用件数」（目標の達成状況【A】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 87 参照

●調査結果と分析



年	件/年
H30	87 (基準年値)
R 1	57
R 2	32
R 3	46
R 4	46
R 5	99
R 6	246
R 6	125 (目標値)

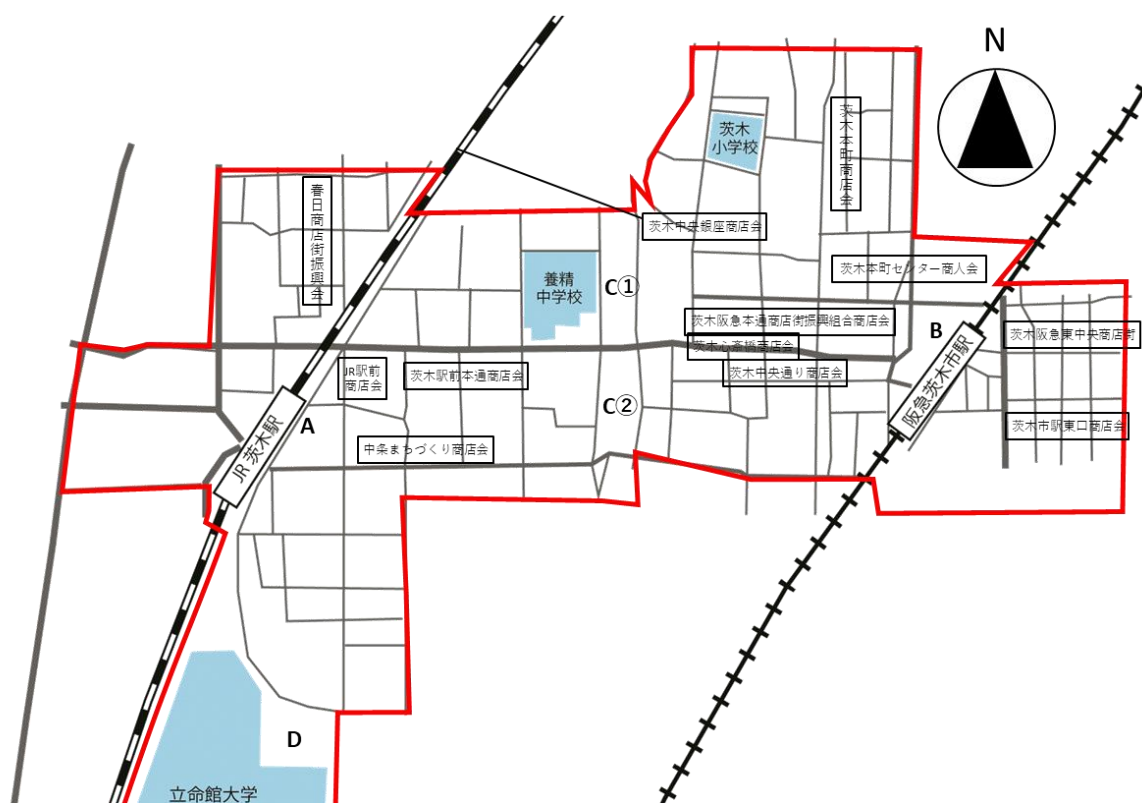
※調査方法：各年度の中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）で市へと利活用の届出のあった年間件数の和を算出。

※調査月：令和7年3月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）でのイベント等件数

（調査地点図）



(各調査地点の公共空間活用数)

調査地点		R1 (調査値)	R2 (調査値)	R3 (調査値)	R4 (調査値)	R5 (調査値)	R6 (調査値)
A	いばらきスカイパレット	5	1	1	3	11	16
B	阪急茨木市駅西口駅前広場	-	-	-	※(2)	※(2)	※(1)
C①	中央公園グラウンド	46	20	37	38	50	25
C②	おにクル(旧中央公園南グラウンド)	-	-	-	-	29	199
D	岩倉公園	6	11	8	5	9	6
全地点計		57	32	46	46	99	246

※阪急茨木市駅西口駅前広場の活用は合計に含まれるが、他の公共空間と同一イベントまたは同日開催のものは1件として他の公共空間に計上している

《分析内容》

「公共空間活用件数」については、前年度の99件/年から大幅に増加し、246件/年(いばらきスカイパレット16件、中央公園グラウンド25件、岩倉公園6件、おにクル[旧中央公園南グラウンド]199件と基準値である87件/年(いばらきスカイパレット5件、中央公園グラウンド72件、岩倉公園10件)を上回り、目標数値を達成した。

おにクルオープン後の旧中央公園南グラウンドにおいて、199件と官民によるイベント等が活発に行われたことや、いばらきスカイパレットにおいても16件とまちづくり会社の精力的な活動により計画期間中最多のイベント実施となったことが主な要因となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 文化複合施設整備事業(地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備)(茨木市)

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和2年度～令和5年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】84件/年 (中央公園の基準値である72件に活用見込12件を加算) 【最新値】224件/年 *中央グラウンドとおにクルの和(目標達成) おにクルの大屋根と芝生広場で構成される公共空間の整備により、新たな年間12件の公共空間(中央公園)の活用増を見込んでいたが、令和6年度にはおにクルオープン後の中央公園において199件の活用と大幅な活用増となり、中心市街地全体では224件と目標を達成した。
達成した(出来)	おにクルの予想を上回る集客効果により、新たな公共空間の存在

なかった)理由	について市民・事業者の間で広く周知されたことや、おにクルオープン前より IBALAB@広場の活用を中心に、市民や事業者等とのネットワークを育ててきたことにより、公共空間活用に対する機運が醸成されてきたことが目標達成の要因と考えられる。
② 中央公園（南）整備事業（茨木市）	
事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】84件／年 （中央公園の基準値である72件に活用見込12件を加算） 【最新値】224件／年 ＊中央グラウンドとおにクルの和（目標達成） おにクルの大屋根と芝生広場で構成される公共空間の整備により、新たな年間12件の公共空間（中央公園）の活用増を見込んでいたが、令和6年度にはおにクルオープン後の中央公園において199件の活用と大幅な活用増となり、中心市街地全体では224件と目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	おにクルの予想を上回る集客効果により、新たな公共空間の存在について市民・事業者の間で広く周知されたこと、おにクルオープン前より IBALAB@広場の活用を中心に、市民や事業者等とのネットワークを育ててきたことにより、公共空間活用に対する機運が醸成されてきたことが目標達成の要因と考えられる。
③道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）	
事業実施期間	令和4年度～令和6年度【実施中】
事業概要	道路の占用の特例を活用し、JR 茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】29件／年（いばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場の基準値である5件に活用見込24件の加算） 【最新値】16件／年（目標未達成） JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場それぞれ年間12件、合わせて年間24件の公共空間活用件数を見込んでいたが、令和6年度で年間16件の活用と目標達成には

	至っていない。
達成した（出来なかった）理由	令和5年3月より、まちづくり会社がJR茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいてコンテナ型カフェ「milk stand cafe elle」を誘致し、それ以前の令和4年度の活用件数年間3件から、令和5年度には年間11件、令和6年度には年間16件と大幅に伸ばし続けている。一方で、阪急茨木市駅西口駅前広場においては、公共空間活用に向けて道路管理者や警察等との協議等の準備段階にあり、まちづくり会社による実際の活用には至っていないことから目標達成には至らなかった。ただし、今後は、阪急茨木市駅西口駅前周辺の再整備に向けた取組による効果が期待される。

④「次なる茨木・クラウド。」プロジェクト（茨木市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の公共空間の活用に向けて、まちづくりの専門家による勉強会やワークショップ等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】2件／年（本事業における活用件数） 【最新値】0件／年（本事業における活用件数）（目標未達成） 勉強会やワークショップ等への参加をきっかけとした市民・事業者等による公園や両駅前広場等の公共空間の活用により、年間2件の活用増を見込んでいたが、本事業の位置付けによる活用は令和6年で0件と目標達成には至っていない。
達成した（出来なかった）理由	「次なる茨木・クラウド。」プロジェクトとして位置付けられた公共空間の活用は令和6度において実施されなかったため、目標達成には至らなかった。ただし、市民や事業者により継続されてきた公共空間活用の取組として、IBALAB@広場での社会実験が年間104件、元茨木川緑地の活用が年間2件と、公共空間活用に向けた機運はおにクル整備後も引き続き醸成されている。また、まちづくり会社による「茨木蚤の市」をはじめとした各種イベントは、まちなかの回遊行動の誘導や公共空間を活用する実践の機会となり、今後の中心市街地活性化における多様な主体の巻き込みに貢献している。

●今後の対策

第1期基本計画の計画期間中、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるイベントの自粛等の影響や施設整備による利用制限の影響等があったが、「公共空間活用件数」の増加に向けた主要事業は概ね順調に進捗し、計画最終年度の令和6年度には246件/年と、目標数値の125件/年を大幅に上回った。「おにクル」開館後の来館者数は予想を大幅に上回る数値で推移していることから、中央公園をはじめ公共空間の活用は今後さらに活発になることが見込まれる。

この目標達成は、厳しい社会情勢下においても、IBALAB@広場で粘り強く展開された、市民や学生、民間事業者等による大小様々なイベント等の試みの積み重ねや、各種行動制限の中工夫をしながら公共空間活用事業に挑戦してきたまちづくり会社等の取組の成果であり、本市の公共空間活用の取組は、本市独自の魅力の発揮につながるものとして継続・発展が望まれる。

今後は、中心市街地内の公共空間において、日常的にイベントやマーケット等を開催することで、多様な市民や事業者等が関わり、出会い、交流が生まれることを誘発する取組を引き続き推進し、人と人とがつながり、共感を通じて自然に豊かさが醸成されるまちなかを目指す。

具体的には、第1期計画の取組で把握された公共空間活用に係る許認可や安全対策をはじめ様々な課題に着実に対応していき、多様な主体がまちなかを使いこなせる仕組みや環境を整えていく。特に、いばらきスカイパレット等ではまちづくり会社主導のもと、管理運営や活用促進の仕組みを整え、魅力的な空間づくりや交流・活動の増加を図る。

また、「2コア1パーク&モール」の都市構造を構成する「パーク」のうち、第1期計画で整備されたおにクルに近接する「市民会館跡地」を公園に整備し、Park-PFI等の民間活力の導入、市民による活用促進等の取組により、市民が集いやすく居心地の良さを高めることで、「パーク」における滞留性向上や中心市街地への回遊性向上に寄与する。

さらに地域に開かれたキャンパスとなっている立命館大学に隣接する岩倉公園では、大学と地域・企業・自治体等多様な主体が地域でつながる拠点として、引き続き活用を促進していく。